

令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
		国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	180	52	44	8.1	14.0	476
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年	学校	183	64.2	50.1	55.9	46.1	53.2	6.0	6.8	10.7	8.9	6.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	164	67.5	42.8	54.7	49.8	61.2	5.2	5.5	9.4	2.4	4.3
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	173	65.8	56.6	58.5	55.4	72.4	7.0	—	7.5	—	2.8
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	54.9	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと	
		【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】	
		(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	
3年	学校	178	117.4	105.8	164.9	106.8
10月17日	大阪市	—	117.4	110.2	146.9	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	141	27.95	26.49	41.50	52.73	83.92	8.26	184.33	18.14	39.63
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	21.28	20.70	44.31	47.05	55.75	9.21	167.60	10.96	45.09
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 城東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語> 全国と比較して、「書くこと」の領域において平均正答率が4.7%低く、無回答率も高かった。一方、「読むこと」の領域においては、全国と比較して平均正答率が0.2%高かった。記述式の問題は4問すべてで無回答率が全国と比較して高く、文章を書くことに課題が見られた。

<数学> 「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全領域において、全国と比較して平均正答率が低かった。個々の問いで見ると、全国と比較して「素数」の意味は理解できているが、「相対度数」の意味は理解できていなかった。また、記述式の問題においては、無回答率が全国と比較して10%以上高い問題もあり、書くことに課題が見られた。

<理科> 全国と比較して、IRTバンド5の割合が4%、4の割合が7.1%低かった。記述問題の無回答率は全国と比較して1%高いだけであり、CBT方式での解答には課題がなかったといえる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては、大阪府の平均点を上回っていた。特に、グラフから読み取って書いたり、前後の文脈に合わせて数値を用いて書いたりする記述式の問題は、大阪府と比較して正答率が高く、無回答率は低かった。一方、「読むこと」の領域においては、大阪府の平均点を下回っていた。特に、古文の正答率が大阪府と比較して低かった。

<社会> 歴史的分野の領域においては、大阪府の平均点を上回っていた。本校と大阪府の得点率を比較すると知識・技能の得点率の差よりも、思考・判断・表現の得点率の差の方が大きかった。記述式の解答に課題がある。

<数学> 各領域において大阪府の平均と同等か上回っていた。無回答率についても大阪府の平均より低かった。

<理科> 「地球」の分野については、大阪府の平均を上回ったが、その他「エネルギー」、「粒子」、「生命」の分野では平均を下回った。とくに「生命」は大幅に下回る結果となった。

<英語> 「読むこと」「書くこと」の領域においては、大阪府の平均点を上回っていた。特に、語や文法事項等を理解して、正しい文を書く問題は大阪府と比較して正答率が高く、無回答率も低かった。一方、「聞くこと」の領域においては、大阪府の平均点を0.4%下回っていた。特に、日常的な話題について、表を読み、それについてのまとまった会話を聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握する正答率が大阪府と比較して低かった。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「ライティング」「スピーキング」「リスニング」において、全国平均を上回るスコアであった。特に「スピーキング」「ライティング」においては、授業内でのライティング活動、スピーキング活動で自分の意見を間違えることを恐れずに表現しようとし、C-NETと連携しながら間違いを訂正し、活動したことが結果として現れたのではないかとと思われる。「リスニング」に関しては、毎週リスニングを行い、定期的に洋楽の聞き取りも行っている。そのため、英語を聞くことに対する抵抗感がなくなっており、話の流れを追うことができているのではないかと考える。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査

各教科の結果から、記述問題に対する苦手意識があることが明白であることから、「書くこと」に対して積極的になれるよう、各教科の授業をはじめ、学校生活の様々な場面で「書く」機会を増やしていく。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

令和6年度、2年生時には4教科で大阪府の平均を上回っていたが、今回大阪府の平均を上回ったのは数学のみであった。各教科において思考・判断・表現の領域において得点率が低い傾向にあるため、教育活動全般を通じて、考えをまとめ、発表し、意見交流する機会を増やしていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「リーディング」において、全国平均と同じ数値であった。ほかの3分野と比べ、長文に慣れていないこと、生徒がボキャブラリーや文法理解に苦手意識を持っているように感じる。日々長文に触れる機会や基礎文法を復習する機会を作り、定着を目指したい。

令和7年度 城東中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<国語>大阪府と比較して、「知識及び技能」より「思考力、判断力、表現力等」の方が平均点が高かった。特に、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」が唯一大阪府の平均点に対して、1年生が下回り、2年生が同点であったため、課題であるといえる。回答率は、1年生は大阪府が10.2%に対し7.0%、2年生は大阪府が7.3%に対し5.2%であり、どちらの学年も低かった。

<社会>基礎・活用で分類した時の正答率では、基礎では大阪市の平均との差が0.8%だったのに対し、活用では4.6%下回った。より複雑な問題形式や知識を複合的に活用する問題に対応できていない傾向が見られた。

<数学>1年生は、全領域で府平均を超えている。2年生は、「図形」「関数」の領域では府平均を超えていたが、「数と式」の領域では府平均を下回った。今後、基礎的な計算力を向上させる必要がある。また、記述式解答の正答率が低いため解答するための練習が必要である。

<理科>1年の対市平均比は市教委からの確定資料がないため未確定である。2年の対府平均比は1.07で、標準偏差は20.5で府の分散よりも小さく収まったものの、ヒストグラムには正答率20～30%に小さい山がみられるいわゆる「フタコブラクダ」状態である。1・2年ともに学習事項の定着に課題のある生徒について学習指導のあり方を模索する必要がある。

<英語>

1年生、2年生ともに、全領域で府の平均を超えている。引き続き、4技能の向上に努めたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【今後に向けて】

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<国語>「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、習熟度別授業等を活用しながら向上を図る。

<社会>複雑な問題形式や知識を複合的に活用する問題に対応できるよう、授業での資料の取り上げ方や、定期テストの問題形式を工夫するなどして、学力の向上を図る。

<数学>基礎的・基本的な学力の定着を図るため、指導方法の改善に取り組んでいく。

<理科>習熟度別少人数授業を行わない状況において、1・2年ともに学習に課題のある生徒に対する学習指導のあり方について、学校総体として検討を要する。

<英語>基礎的・基本的な学力の定着から応用まで、個に応じた指導をしていきたい

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【結果】

・新体力テストの結果では、男子においては、反復横跳びと20mシャトルランで全国と大阪市平均を上回ることができた。また上体起こしについては、全国平均のみ上回ることができた。

・女子においては、反復横跳びと20mシャトルラン、立ち幅跳びで全国と大阪市平均を上回ることができた。

【成果】

・上記の結果以外で、本校の前年度と比較すると、男子においては、握力、上体起こし、長座体前屈、ハンドボール投げの4種目が前年度よりも今年度の記録が上回っていた。

・女子においては、上体起こし、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの5種目と総合点が上回っていた。

・運動能力、運動習慣等調査では、男女とも運動やスポーツが好きかという問いに、好きという回答が全国平均に比べて、男子は約12%、女子は7%低い結果となった。また1週間の総運動時間が0分と回答した生徒が、男子で約5%、女子で15%いたことがわかった。

【今後に向けて】

・今後に向けて、まず保健体育の授業を運動やスポーツに親しむ機会としても捉えて、運動が苦手な生徒が積極的に取り組めるよう教材研究が必要だと考える。

・より多くの生徒が、保健体育の授業以外で、運動やスポーツに参加する時間が増えていくことが、新体力テストの記録向上につながると考える。

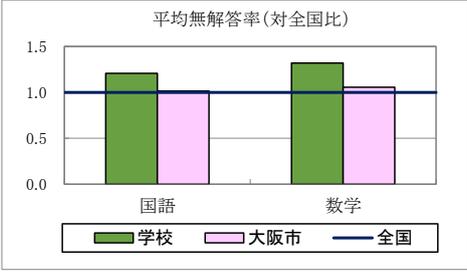
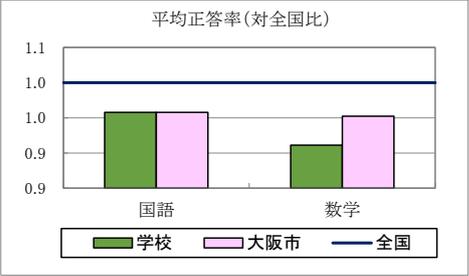
令和7年度 城東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	44
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)	
国語	数学
8.1	14.0
6.8	11.2
6.7	10.6

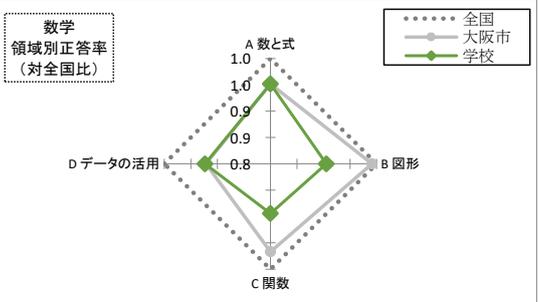
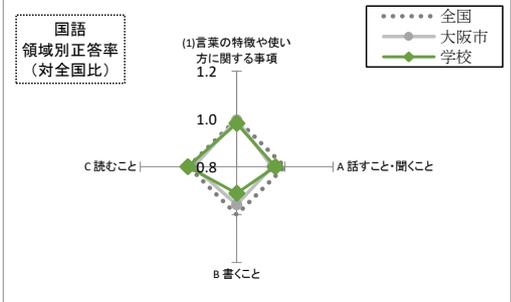
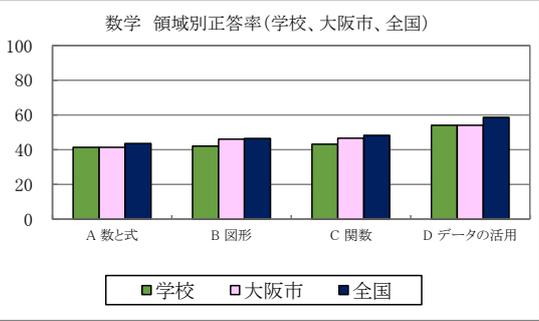
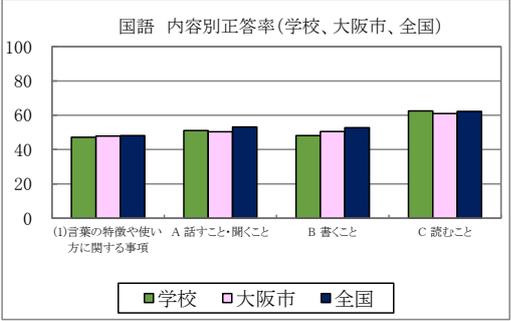


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.2	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	51.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	48.1	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.5	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	41.4	41.4	43.5
B 図形	4	42.1	46.1	46.5
C 関数	3	43.1	46.6	48.2
D データの活用	3	54.1	54.0	58.6

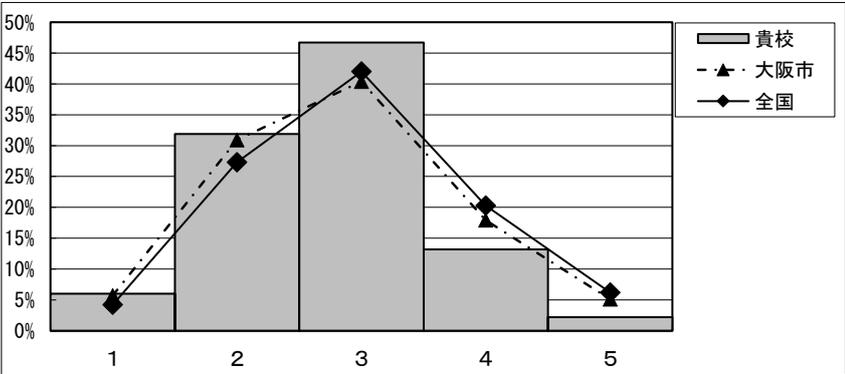
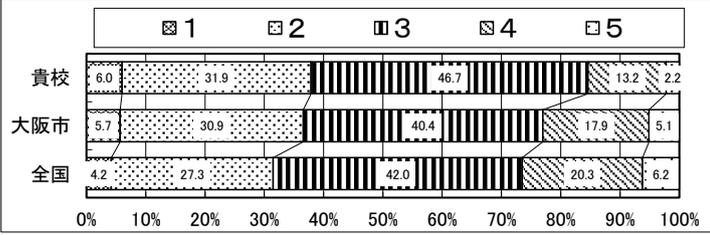


令和7年度 城東中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	476
大阪市	489
全国	503



令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

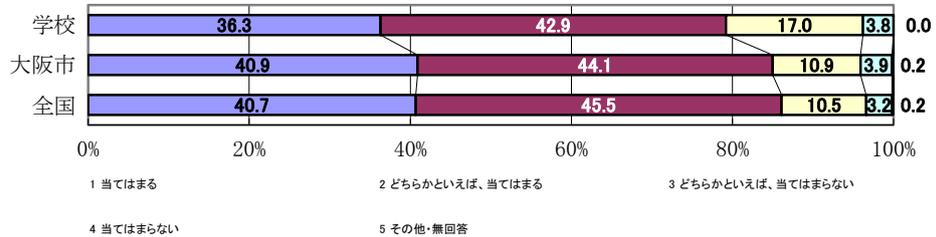
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

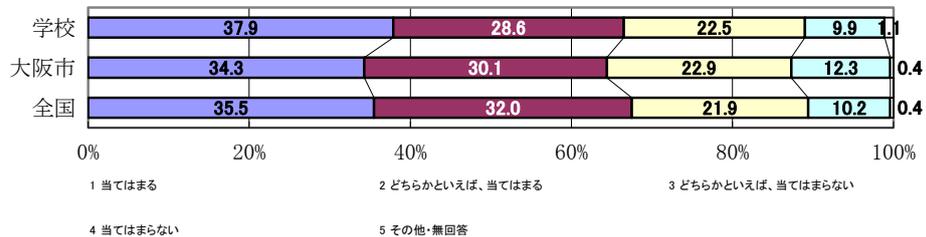
5

自分には、よいところがあると思いますか



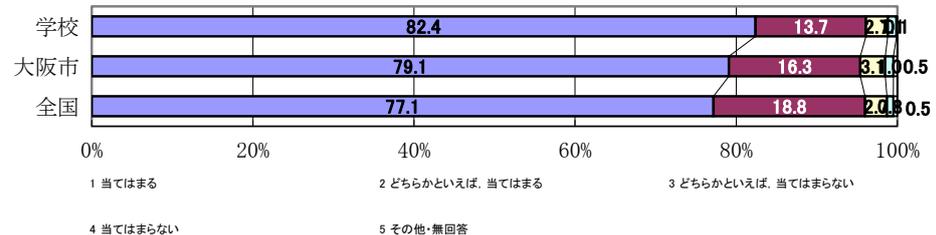
7

将来の夢や目標を持っていますか



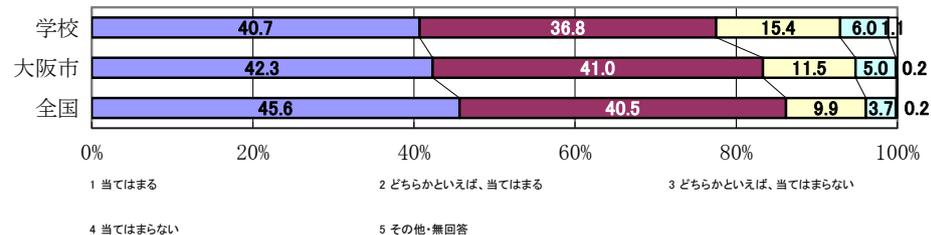
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



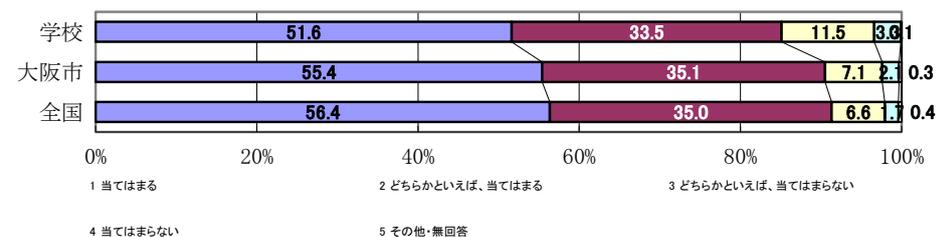
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



14

友達関係に満足していますか



令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

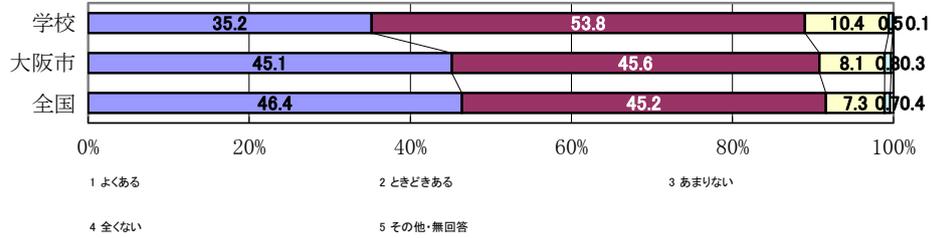
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

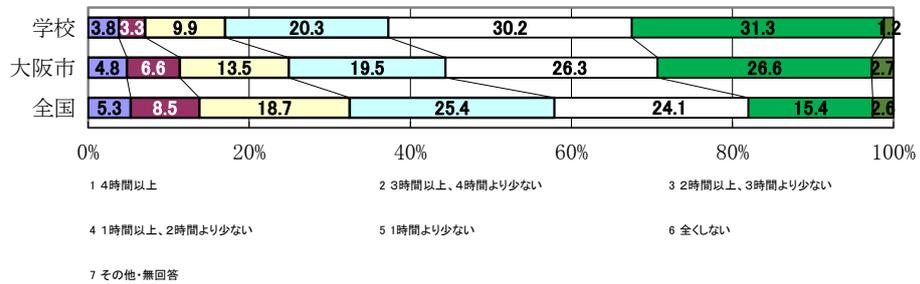
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



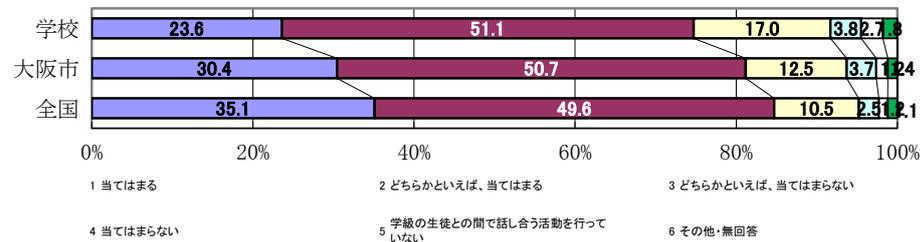
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



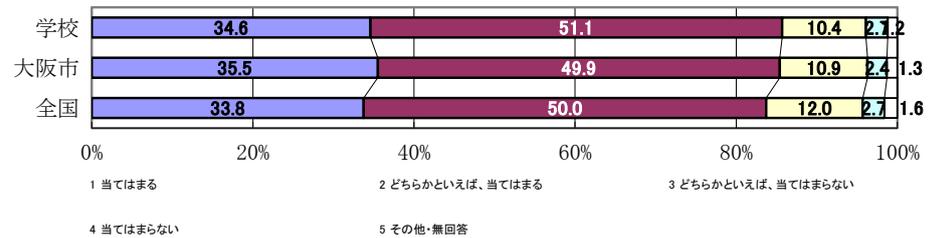
35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



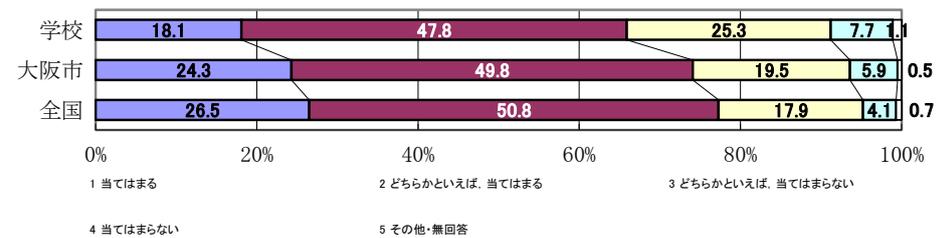
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



42

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

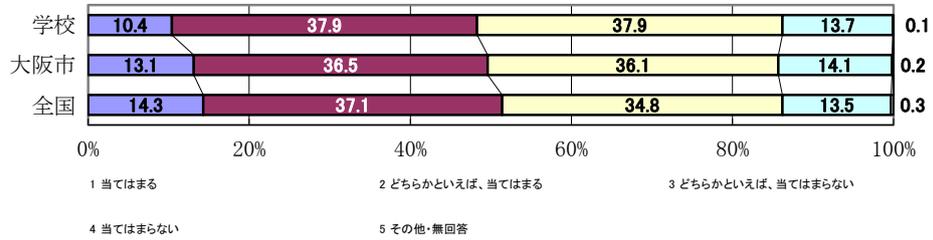


令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

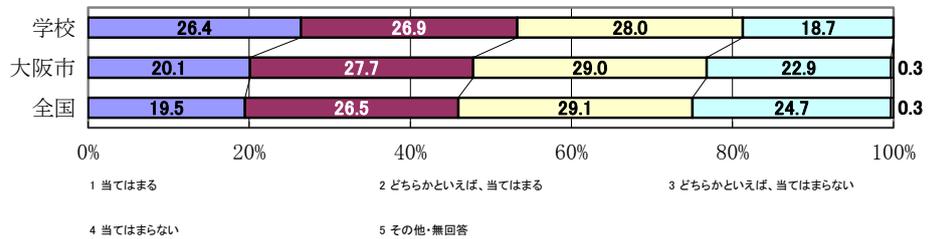
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

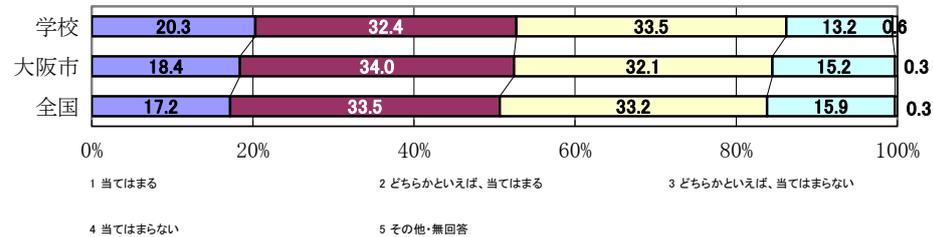
質問番号
質問事項
44
国語の勉強は得意ですか

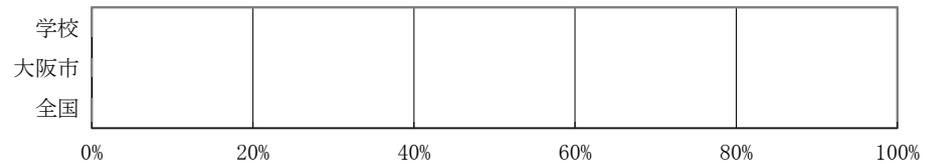


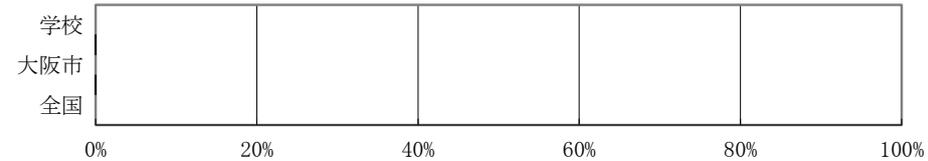
52
数学の勉強は得意ですか



60
理科の勉強は得意ですか







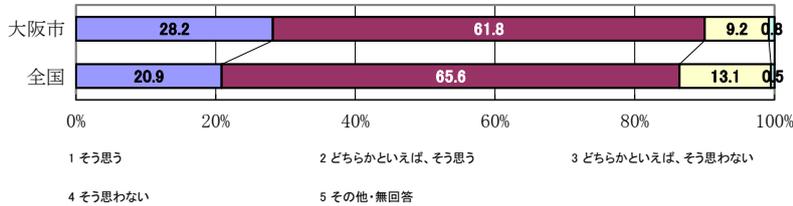
令和7年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



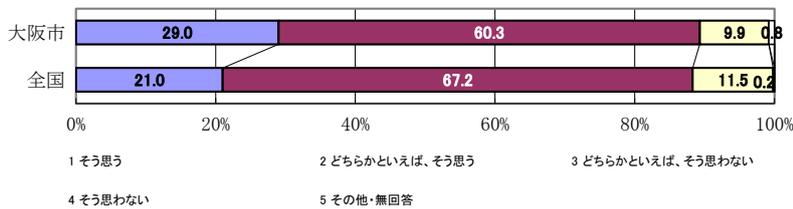
質問番号
質問事項
7
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



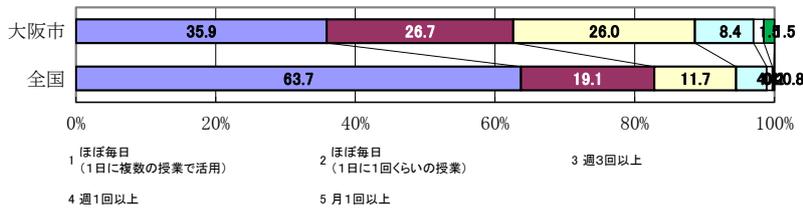
25
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



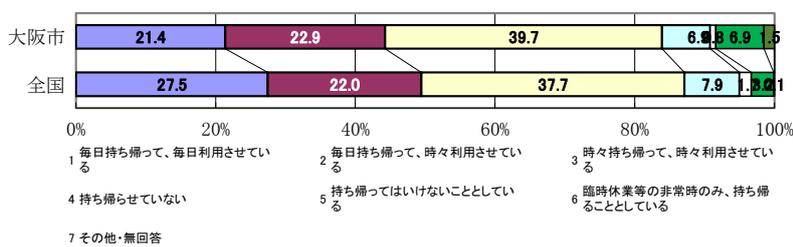
58
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択



66
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択



80
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

